

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 651 2022年
1月号
1部360円
友の会会員は会費に含まれています
発行 東京勤労者医療会代々木病院
院長 河邊 博正
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661
http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi



謹賀新年



2022年 代々木病院職員一同



事務長 澤田 和恵
新年ごあいさつ



看護部長 鈴木 海
新年ごあいさつ



院長 河邊 博正
新年ごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。昨年は、友の会・地域の皆さん、多くの方々たいへんお世話になりました。

この間、代々木病院では、発熱外来、患者さんの受入れ、ワクチン接種を行い、東京都からの確保病床では第5波の感染拡大の際に2床から4床に増床しました。昨夏、政府は強硬に東京五輪を開催し、国立競技場に近い代々木病院では、五輪開催とともに陽性率が上がり続け、一時は7割近くになりました。感染拡大の中、陽性者には自宅療養を押し付け、かけがえのない命も犠牲になりました。

こうした中、ワクチン接種を旺盛に行えたのは、友の会のご協力があったからです。渋谷区で18,000件、約10%に及びます。また地域の方や友の会の会員さんに「お元気ですか」

新年あけましておめでとうございます。少しだけいつもどおりの年末年始をお過ごしでしょうか。

昨年の新型コロナウイルス感染症第5波では、代々木病院も例外なく感染の波に巻き込まれ、厳しい「医療崩壊」の現状を感ぜられました。毎日発熱外来で大勢の患者さんを受け入れ、病床も感染状況に応じて確保してきました。看護職員は心身共に疲弊し、やりきれない苦しい日々を送りましたが「入院できず苦しんでいる患者さんがたくさんいる」となんども意思統一しながら踏ん張って乗り越えてきました。そんな状況のなか、友の会からいただいた寄付で新し

新年明けましておめでとうございます。昨年、代々木健康友の会や地域の皆さんからは、たくさんのお支えを頂き誠にありがとうございました。まずは年頭にあたり心より御礼申し上げます。

さて、2年近く続いたコロナの猛威も幾分落ち着いての年明けとなり、皆さんホッとされているのではないのでしょうか。

この2年間で私たちの周りの環境も大きく変化しました。複数人で集まるとの活動がしづらい御時世の中、精神的・身体的に窮屈な状況が続き、それによる健康障害も起きているのでは

「ール」を行い、お困りごとがないか聞き取りもしました。ワクチン接種を保健予防活動としてのみ捉えるのではなく地域活動と位置づけ、広範な人たちと結びつくことができました。コロナ禍の生活実態の聞き取りを行う中で、接種券が届かない、住民登録が誤ってない方の接種の助けも行き、情報格差の実態を学びました。得られる情報の量や質の差が社会的、経済的な格差を生む1つの要因であることが如実に現れました。

このような職員一人一人の実践が、民医連綱領の実践で、地域と共に歩む代々木病院の現在のあるべき姿だと思います。

2022年も、地域における役割をより一層明確にし、地域になくならない病院となれるよう努力してまいります。

い車いす、救急外来のベッド、エアーマットの購入ができたことは大きな励みになり、みなさんからこんなにも支えていただいているのだと実感することができました。あらためて感謝申し上げます。

2022年はこれまで以上に看護師一人ひとりが学び成長し、チャレンジしていく年にしていきたいと思います。と同時に、日常の看護を振り返り、事例から学ぶことを大切にします。病気だけでなく生活者としての患者さんをとらえ、苦痛に寄り添い、願いをかなえる看護ができる、そんな看護集団を目指したいと思います。

ないでしょうか。

本年もウイズ・コロナの中で代々木病院が地域の皆さんの役に立てるよう、医療・介護・保健予防活動に精力的に取り組んで参ります。引き続き皆様からの御指導を宜しくお願い致します。

諸外国ではオミクロン株の感染が拡大しています。

皆様におかれましてはホッとし過ぎず、これまでの手洗い・うがい、マスクの着用、密の回避の基本を継続し御愛ください。

千駄の萱

明けましておめでとうございます。日中がそうでしたが、代々木病院の2021年はひたすらに新型コロナウイルス対策に明け暮れた年でした。発熱外来の開設、コロナ専用病室の設置、そして2万人近くに接種したワクチン接種センターとしての活動。いずれも近年に無い初めての事ばかり。医療崩壊が叫ばれ、実際に第5波最盛期には院内クラスターにより機能制限を受けたり、外来、病棟の閉鎖などに追い込まれる医療機関も多々発生しました。当院でも毎日がヒリヒリするような緊張感の中で日々の医療・介護業務をこなしてきました。幸い感染者はごくわずかですが、今のところ大きな機能制限を受けることなく乗り切ってきました。辛い思いをしたスタッフも無事に復帰し現場を支えています。しかし、日本中では多くの仲間や患者さん、家族が斃れました。立ち直った者達にも傷跡が残ります。目に見えない小さな脅威は私たちの社会をも分断し、壊しかけてきました。それでも私たちは負けていません。2022年は、支え合う、理性と思いやりで満ちた社会を取り戻す第一歩にしていきたいと思います。(ひ)